

私立大学研究ブランディング事業

2019年度の進捗状況

学校法人番号	131036	学校法人名	成城学園		
大学名	成城大学				
事業名	持続可能な相互包摂型社会の実現に向けた世界的グローバル研究拠点の確立と推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	4860人
参画組織	グローバル研究センター、民俗学研究所、経済研究所				
事業概要	<p>本事業は、成城大学が世界に先駆けて開始したグローバル研究の蓄積を基に、多様・多元・多層的な存在や価値観が併存する相互包摂型社会のあり方を提示するとともに、それを支える人と社会の「しなやかさ」(resilience)の解明を目指すものである。その成果を本学の伝統とする高度教養教育に還元することで、来たるべき未来社会で活躍する「しなやか人材」の育成をも担う世界的なグローバル研究・教育拠点の確立と推進をめざす。</p>				
①事業目的	<p>本事業はグローバル化(グローバル化)がますます進行・浸透する未来社会において、6つの分野(「生活資源」「文化資源」「身体資源」「人的資源」「環境資源」「金融資源」)を対象とするグローバル研究を通して、多様・多元・多層的な存在や価値観の併存を互いに許容する相互包摂型社会をより望ましい社会として構想し、提示する。同時にそうした社会で柔軟に生きかつ活躍する新しい人間像を「しなやか人間」「しなやか人材」として提起する。最終的には本事業の研究成果を教育実践へと活用する経路を明確化することで、研究と教育の両面から「グローバル研究」を世界的レベルで推進し、「しなやか人材」の育成を本学のブランディングとして確立することを目指す。</p>				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p><実施目標> 2019年度は、グローバル研究の理論・方法論の検討を進めるとともに、6つのプロジェクトチームが実証的研究を継続する。またブランディング事業の中核としてのグローバル研究センターの整備・拡充をおこなう。さらに、内外の大学・研究機関との連携を進める。</p> <p><実施計画> 研究体制の整備・拡充として①研究拠点としてのグローバル研究センターの整備・拡充、②日本内外の大学ないし研究機関との連携、協力関係の拡大を進める グローバル研究の推進として①グローバル研究の理論と方法の実践的検討、②事業を構成する6つの研究プロジェクトによる個別研究、などをおこなう。</p>				
③2019年度の事業成果	<p>1 研究体制の整備・拡充 本年度も前年度の体制を継承し、事業所管委員会である研究戦略委員会との連携のもとで、全学的な情報の共有をおこなった。さらにブランディング事業実施推進委員会を定期的に関催し、事業内での進捗状況の確認をおこなった。また同委員会のもとで、各研究プロジェクトの成果を集めたポスターセッションをおこない、事業参加者間での交流をはかり、あわせてグローバル研究についての認識の共有に努めた。以上の活動を基にして、グローバル研究の全体像をまとめた『グローバル研究の理論と実践』(東信堂、2020)を刊行した。さらに前年度に続きPD3名を雇用し、また本年度も若手育成プロジェクト「若手研究者育成事業」を実施した。 また学外研究機関との連携としては、ドイツ・ミュンヘン大学との協定の締結をおこなった。</p> <p>2 グローバル研究の推進 本事業では「グローバル研究」を本学の研究ブランディングとして位置づけるものであり、そのためグローバル研究を推進するものである。研究は①全体的な活動と②研究チームによる活動、によって構成されている。 全体的な活動には、グローバル研究の理論・方法論の検討、グローバル研究についての全体的な認識の共有、グローバル研究の推進のためのシンポジウムの開催などが含まれる。研究チームはそれぞれ設定した目的・計画に基づき研究を進めた。本年度はこのような研究活動をまとめたものとして、『グローバル研究の理論と実践』(東信堂、2020)を刊行した。</p>				

<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 本事業における目標達成度の評価は、年度末に提出する「研究経過報告書」に基づいて本学の自己点検評価委員会並びに外部評価委員会が適切に行う。</p> <p><自己点検・評価></p> <p>1 研究体制の整備・拡充</p> <p>① 全学的な実施体制、中核となるグローバル研究センターについては、引続き拡充が図られている。</p> <p>② 日本内外の大学ないし研究機関との連携、協力関係は拡大している。</p> <p>③ パンフレットの作成などにより、情報発信が進められている。</p> <p>2 グローカル研究の推進</p> <p>① グローカル研究の内容・方法等の明確化については、全体集会の開催等により進展が見られる。特にグローバル研究を総括した書籍が刊行されたこともあり、全体的な理解は進んでいる。</p> <p>② 各チームによる研究はほぼ予定通り進んでいる。</p> <p>3 改善を要する事項</p> <p>① 人材育成についての検討が十分ではなく、最終年度の課題となっている。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>(外部評価) (準備中)</p> <p>研究拠点としてのグローバル研究センターの研究環境と研究体制の整備、拡充を行った。研究支援のためのPDを雇用し、成果発信のためのホームページ改修、機器備品、書籍を購入した。各研究チームは個別研究を行い、ワークショップを開催し、成果報告を刊行するなど精力的に活動しており、補助金は主にシンポジウム開催費用、調査出張旅費、研究成果の印刷、郵送等に使用した。</p> <p><研究費></p> <p>[旅費交通費] 学会・調査出張旅費</p> <p>[図書資料費] 書籍、パソコンソフト代</p> <p>[消耗品費] パソコン周辺機器、事務用品等</p> <p>[用品費] シンポジウム撮影用ビデオカメラ等</p> <p>[印刷製本費] 研究成果刊行物、シンポジウムポスター・チラシ印刷費</p> <p>[保守料] コピー機</p> <p>[賃借料] コピー機リース、シンポジウム機材レンタル料</p> <p><広報・普及費></p> <p>[委託報酬費] 事業報告書作成、英文ホームページ翻訳、英文校正、外部評価・講演依頼謝金等</p> <p>[雑費] 招聘者航空券・宿泊費等</p> <p>[通信運搬費] 刊行物郵送料</p> <p><その他></p> <p>[人件費] 研究支援従事者人件費(PD、アルバイト等)</p>